

ホワイトペーパー エグゼクティブサマリー

希望の光:クラウド上でのライセンシング

クラウドでのライセンスとライセンスプロビジョニング

「クラウドコンピューティング」という用語は広く普及しています。クラウド内のソフトウェア、クラウド内のプラットフォーム、クラウド内のデータ、そしてクラウド関連のIT技術など、どこでも耳にします。しかし、そのような普遍性があっても、実際にクラウドコンピューティングを構成するものについては依然として多くの混乱があります。そして、混乱は用語の由来にも影響しています。グーグルやアマゾンなどの企業が、ソフトウェア、ファイル、さらにはウェブを介して人々がコンピューティングにアクセスする能力を表すためにこの用語を使い始めたのでしょうか？1967 年に最初の現金自動預け払い 機を可能にしたのはクラウドコンピューティングだったのでしょうか？それとも、1960 年代に ARPANET で行われた、いつでもどこからでも人とデータをつなぐ作業の結果としてこの用語は生まれたのでしょうか？

産業界の大半は、クラウドコンピューティングの定義に関する議論から離れ、特定のアプリケーションに対するテクノロジーの利点を宣伝することへ注力しています。このホワイトペーパーの目的として、クラウドコンピューティングは、リモートデバイスによるデータの処理として簡単に説明されていると想定しています。となると、クラウドでのライセンスとは何なのでしょうか？

このホワイトペーパーでは、CodeMeter クラウドベースライセンスプラットフォームに関連するいくつかの架空のユースケースを通じて、クラウドでのライセンスプロビジョニングとクラウドでのライセンスの違いを定義することにより、クラウドベースのライセンスについて説明します。ユースケースは、エンタイトルメント管理システムである CodeMeter License Central に固有のさまざまな機能と、バックオフィスの CRM および ERP システムに直接統合する機能を示しています。

CodeMeter License Central は、エンドユーザーがソフトウェアまたはソフトウェア機能のロックを解除してアクティベーションするためのライセンスを生成できます。この機能は非常に柔軟性があり、有効期限、使用回数、その他の無数の要件など、さまざまなライセンスの要件を満たすことができます。最も基本的な設定では、顧客はブラウザにチケット番号を入力し、WebDepot アプリケーションをクリックするだけで、アプリケーションが完全にライセンス管理されていることを確認できます。ライセンスは最終的に、ユーザーがアクセスできる場所に保存されます。従来、ライセンスは、ローカルまたは企業ネットワーク上のどこかに、ユーザー自身のハードディスク(CmActLicense など)または特別に暗号化されたドングル(CmDongle)に保存されていました。アーキテクチャは、エンドユーザーがライセンスの場所を心配する必要がないように設計されています。必要なときに必要なソフトウェアにアクセスできるようにするだけです。

クラウドベースのシステムの重要な側面はセキュリティです。ホワイトペーパーでは、CodeMeter Cloud と、クラウドライセンスおよびストレージ環境への信頼を確立し、サービスの整合性を保護するための証明書チェーンの使用について説明します。CodeMeterCloud は、安全な Web 環境でライセンスを保持し、特に必要とする人のみアクセス可能で、許可された人だけが管理できます。

ホワイトペーパーをダウンロード

sales-jp@wibu.com | www.wibu.jp

WIBU SYSTEMS

2026-03-03